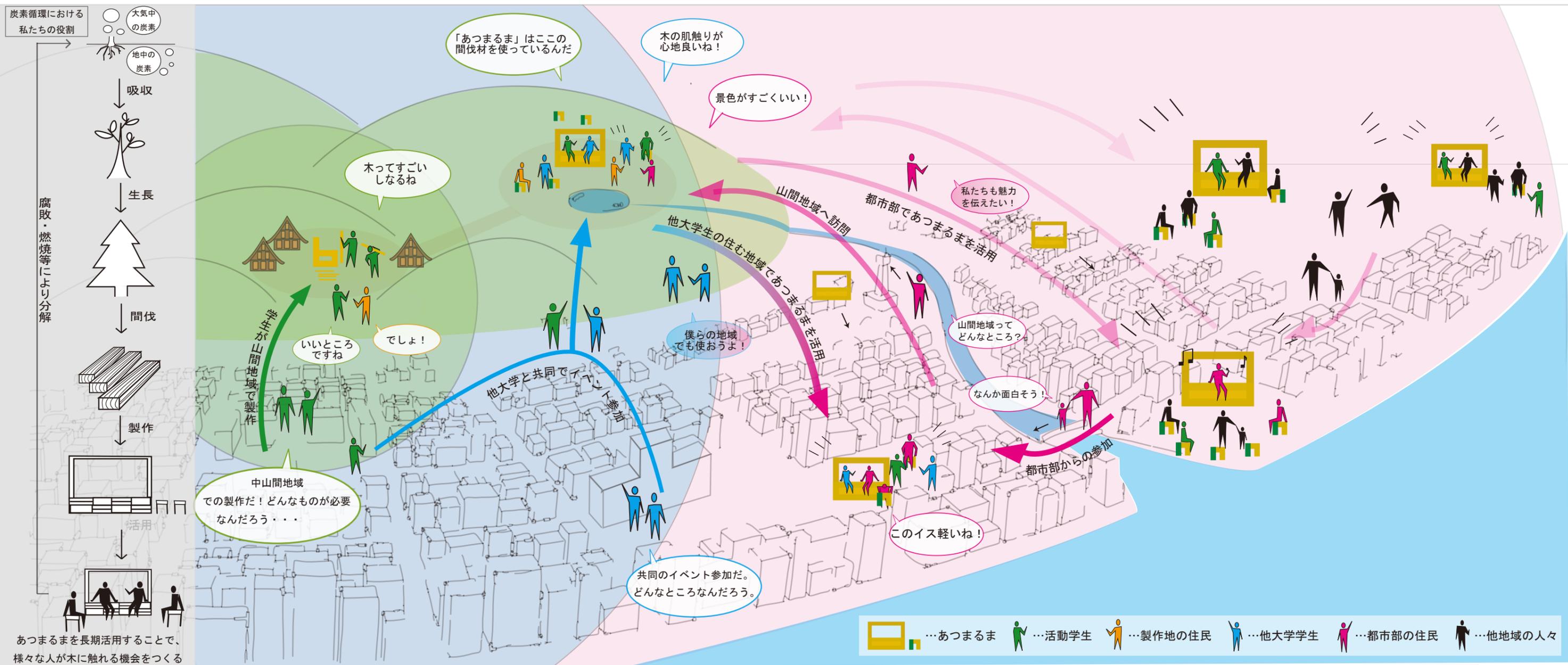


あつまるま

— ひろがる地域材空間の活用 —

「あつまるま」は移動式茶室です。茶室と言っても、単なるお茶を愉しむ空間としてだけでなく、人があつまり、会話を楽しみ、人と人につながりを生む場だと、私たちは考えています。杉の地域間伐材で製作された「あつまるま」は肌触りが柔らかく温かみがあり、かつその地域の一部としての役割を持ちます。そのため、他地域や都

市部のイベントで「あつまるま」を用いることで、人があつまり、木に触れ、コミュニケーションが生まれ、製作地や木の魅力をより効果的に伝えることができます。それぞれの場所で、それぞれの使い方で、「あつまるま」は「あつまる間」を形成し、地域活性化と木材の利用促進の波が、製作地から様々な地域へ広がっていきます。



都市部の学生が中山間地域で製作活動

都市に住む学生が中山間地域の実情を知り、自分たちには何ができるのかを考え、話し合った。脱炭素社会を実現するため、地域間伐材を長期活用した活動をしたと思い、その地域で「あつまるま」の製作を行った。実際に木を使って製作活動をする、大学では学べないような木の特性や木の魅力を体感することが出来た。また、その地域に入って活動することで、都会では味わえない自然の良さや風景の美しさを感じた。そして、木とこの地域の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと思うようになった。

他大学の学生と木の団らん空間活用

地域で製作したあつまるまを活用するために、地域のイベントに参加した。その際、以前知り合った他の学生団体と共同で参加し、学生同士で協力してイベントを盛り上げた。私たちが製作したあつまるまを用いて、他大学の学生がお茶をふるまうことで、学生同士のみならず、地域住民や観光客との交流が生まれ、様々な人に杉のもつ温かみや肌触りの良さを感じてもらえた。

様々な地域のイベントで活用

地域のイベントで、あつまるまを介して様々な人に木の魅力を伝えることが出来た。特に、先述の学生団体には「自分たちの活動地域でも使いたい」と言ってもらえた。今後、このような形で様々な土地で活用され、より多くの人々に魅力を伝えていけるだろう。そのため、あつまるまは下写真のように多様な使い方が想定されている。あつまるまを介して木や製作地に興味を持つ人が増えることで、地域活性化や木材の利用促進の波が広がっていく。今後も、この波を広げていくために、精力的に活動していきたいと思う。



床面作製の様子 部材の切り出し 防腐塗料の塗装



みんなで団楽 互いの活動について語り合う



自由に椅子を配置して遊ぶ子ども イスをテーブルにして食事する家族 イスを広げてライブ会場に